

生活や情報の質の向上にチャレンジし、インテリジェンスのある都市になって欲しい。

—— 「FUKUOKA NOW」 CEO 兼 編集長 ニック・サーズ氏



ニック・サーズ (Nick Szasz)

1960年、カナダ・トロント生まれ。1985年に来日し、東京・大阪での生活を経て1990年に福岡へ。1998年には、福岡在住の外国人を主な対象にしたフリーペーパー『FUKUOKA NOW』を創刊し、現在は同社 CEO 兼 編集長。

淋しかった 20 数年前と比べ、大変便利に

この 20 年近くを振り返ると、外国人にとって福岡での生活はかなり便利になったと思います。例えば、生活していく上で、時々どうしても欲しくなるような海外の食品や雑貨などがあるのですが、その昔、そうしたものが入手できる場所といえば、新天町のレイメイ、明治通りの明治屋やソニープラザぐらいしかなく、ワインを買うのも岩田屋でした。それが今ではそうしたものを買える店が増えました。福岡市外になりますが、コストコができたのは買物する上でインパクトが大きかったですし、来年にはイケアも出店しますよね。

お店の数もさることながら、外国人コミュニティが小さく、私自身、仕事場以外に日々の生活で行く場所がないところが淋しかったです。当時は外国人ビジネスマンが少なく、外国人で働いている人といえば、語学学校の教師というワンタイプな在留者が主流でした。今では徐々に多様な人たちが集まりつつあると思います。

昨年秋に英字新聞『Japan Times』がようやく福岡での当日販売を開始しました。それまでは東京から一日遅れでの販売でしたが、福岡にもそのような情報ニーズが増えてきた証拠だ

と思います。もちろん、今のネット時代に紙面情報というのは少し遅れているかもしれませんが、外国人向けの情報の格差はインターネットの普及もあって解消されてきています。昔は映画も東京での封切後、少し経ってから福岡での上映開始となるなど、情報のタイムラグがありましたよ。

ロフトや東急ハンズもできて、東京や大阪との格差は縮んだと言えますが、例えばバーニーズができること自体はいいのですが、それで渋滞が酷くなつては快適な街とは言えません。その意味では、何でも新しく、大きくしていく必要はなく、開発をする場合には上手にやってほしいですね。

快適で住みやすい都市、福岡

私は東京で3年半、大阪で1年半それぞれ生活した後、1990年に福岡に移ってきてソフト開発会社に入りました。入社2週間後のある日、同僚が自ら運転する車に乗って、1時間の昼休みの間に大名までランチに行ったのですが、こんなことは東京や大阪では考えられませんでした。大都市と比べ、福岡は空も広がったですね。気温が高くても風が街を通るので、体感温

度もそこまで高くは感じなかったですが、最近
は開発も進んで、空も温度も昔のように感じ
られなくなりました。それでも、東京や大阪に
比べればまだまだ良い方です。

この20年ぐらいで、福岡にいる外国人も増
えたのではないのでしょうか。留学生も増えてい
るでしょうし、個人的な感覚では、永住なのか
は分かりませんが、比較的長く福岡に住んでい
る外国人が増えている感じがします。結婚したり
、仕事が上手くいったりして、そのまま長く
住んでいるのかもしれませんが、日本の中でも、
福岡はやはり住みやすい都市だと思います。

インテリジェンスのある街を目指して

未来の福岡には、一言で言うとインテリジェ
ンスのある街であってほしいですね。東京や大
阪のようなメガシティではないのが福岡の良
さです。産業的な街ではありませんが、かとい
ってショッピングの街として大規模商業施設
が多ければいい、ということではなく、様々な
タイプの人が集う街であることが大切です。ソ
フトウェア開発する人もいれば、デザインする
人もいる、そういう多様な人々を引きつける街
は、インテリジェンスのある街で、人々の交流
が新しい価値を生んだり、面白い都市を作り出
したりするはずです。

観光面では見た目のインパクトがある施設
があった方がいいのですが、それが無くとも
心配ありません。福岡は東京のような
“Wow!”とインパクトを与えるスケールも建築
群ありませんし、大阪のような派手さもあり
ませんが、“Nice Japan”、“Livable Japan”だ
と思います。自然と都会が近く、“North
American Lifestyle”が実現できる街です。外
国人も1～2日福岡に滞在すれば、「シアトル
やバンクーバーでのライフスタイルとそん
な変わらない。福岡の暮らしは“reasonable”
だ」と感じてもらえると思います。東京だと、

刺激は強くてもこのようなライフスタイルの
実現は難しいですね。

福岡は優しさ、柔らかさ、ヒューマニティと
いった、ソフトインパクトを磨き上げるべきで
はないでしょうか。都心の緑やベンチを増やし、
都市の快適さや優しさを磨いてほしいですね。

情報という生活インフラ整備に寄与

私が福岡へ来た当時、外国人向けの食事やシ
ョッピングの情報提供はほとんどありません
でした。東京ではそうした外国人向けの情報が
提供されていたので、「無いのなら自分で作る
う」と思い立ち、技術者だった私は、1993年
に『Tango』という電子フロッピーやパソコン
通信で発信する電子媒体を趣味で創刊しまし
た。これを地元出版会社にセールスし、そこと
タイアップして『RADAR』という紙媒体を発
刊した頃から、技術者から出版者へ仕事がシフ
トしていきました。ただ、この『RADAR』は
英語版のみだったこともあってビジネスの面
では不調でした。そこで自ら『FUKUOKA
NOW』を立ち上げ、現在に至っています。

こうした取り組みの成果もあってか、それま
で外国人は店員などとして雇われるケースが
多かったのが、だんだんと、飲食はもちろん、
ダンス教室、アパレル、輸入雑貨、日本製品輸
出など、様々なビジネスを自ら立ち上げるケ
ースが増えてきました。そうした面では、この仕
事をやってきて良かったかな、とも思っていま
す。言い換えれば、こうした外国人向けの情報
提供が、外国人が福岡で生活する上でのインフ
ラ整備になったのかもしれない。

発信する情報については、自分たちでネタを
拾ってきて自らの手で発信するのが、今でも続
くポリシーです。また、これも今でも続いてい
ますが、自分の生活には直接関係ないことでも、
街に関する話題はニュースサマリーとして発
信するようにしています。先程触れた『Japan

Times』などは、九州や福岡の話題が少ないんですよね。

情報の質を高めていくことが重要

今、福岡に住む外国人に求められている情報ニーズですが、とても重要なライフラインの情報は、結構提供されているんですよ。この時代、ネットで検索すれば、大抵の事柄は検索で引っかかりますし。

とはいえ、そうした情報は「完璧ではないけれど、悪くはない」というレベルで、情報の質の面では課題があるかもしれません。例えば、緊急時の避難方法といった How To はあるのですが、ではどこに避難すればいいのか、という避難場所の情報提供などは、現時点ではできていません。また、英語が通じる病院、という情報もかつて見かけましたが、英語が使えるかどうかのアンケートを集約しただけだったようで、実際の診療や治療の際、英語がきちんと通じるかまでは検証されておらず、信頼性が低い情報だったようです。

その意味では、情報における信頼性という観点は大変重要で、地域の事情に通じた外国人のプロと、コミュニケーションが上手な日本人がタグを組んで情報を発信することが有効ではないでしょうか。市役所の中にも JET プログラム (=外国語青年招致事業) で来ている人がいるのですが、彼らはその道のプロではありませんし、1～2年程度の滞在で離れていきます。ローコストで便利な存在として、彼らに情報発信の依頼をするのですが、長く福岡にいて、多方面の事情を知っているプロの外国人に情報発信を任せ、情報の質、つまり付加価値を高めないといけなとを考えます。

健康診断など、健康に関するプログラムを紹介する英語パンフレットも見かけましたが、やはりエンドユーザーのことをきちんと考えずに作られていました。現時点で、こうした安易

に作られた外国人向けの情報が多いように感じます。同じ費用をかけるなら、当社のようなプロにまず相談してから、エンドユーザーの使い勝手のいいツールを作ってみてはいかがでしょうか。

情報の質同様、英語の質も高めることが大切

アジアに位置する福岡が、アジアを重視するのは当然かつ大事なことです。もし、それ以外の地域に対する福岡市からのアプローチに関して何か言うとしたら、英語での情報発信の大切さでしょうか。「いい英語」を使って PR することがポイントでしょう。シンガポールや香港の PR を見るとよくわかりますが、英語の質が高いのです。コストパフォーマンスで考えるのではなく、きっとその道のプロに任せているのでしょう。一旦、そうした面での質の高さを示せば、厳しい目を持つインテリジェンスクラスの人々の目にも留まります。福岡は片田舎ではない、と理解してもらうのにも効果的だと思います。もちろん、これから個人旅行客が増える中国語、そして既に多くの交流人口がある韓国語でも同様で、そちらはそちらで大事にしないといけません。質の高い英語できちんと PR できるようにしておけば、世界各国に対応できます。視点を変えると、日本人が海外で下手な日本語を見た時と、そうでない時、その地域への心象が違ってくると同じことです。

コミュニティや教育環境への注力を

外国人が同じ場所に長く暮らす上では、もちろん雇用の問題はあるでしょう。特に、日本語もまだ不慣れであろう就職時におけるサポートは必要だと思います。

外国人の定住は、福岡市にとってもいいことだと思いますが、そうした定住を促進する制度やサポートの整備も、当然重要です。例えばインターナショナルスクールは福岡にもあるに

はあるのですが、これが「子供を通わせたい」と外国人が思えるようなレベルにあれば、家族の福岡居住も進むでしょう。残念ながら、私の知る外国人実業家は、仕事の拠点は福岡ですが、家族は神戸にいます。このような例はレアなのかもしれませんが、外国人コミュニティが限られていることや、学校のレベルを考えて、二重生活をしている人がいることは事実です。

つまり、まずは機能や施設が「あること」が大事ですが、そこで満足せず、その質を高めることも大切なのです。学校の問題も視点を変えれば、日本の学校が、外国人をどんどん受け入れられるように対応していくのも、一つの方策ではないでしょうか。どちらにしても、相応の投資は必要でしょう。

パブリックスペースの活用で街を魅力的に

最近、釜山に行ったのですが、イベントが多いことに感心しました。福岡でもそれなりにイベントは行われているはずですが、もっとパブリックスペースを活用したイベントを上手くできないでしょうか。那珂川の水上バスも、パブリックスペースを使いやすくする取り組みとして、大賛成です。パブリックスペースを活用すれば、人が買い物以外でも街中に滞在しやすいゆったりとした街になるでしょう。そんな街にはクリエイティブな人たちも住みたくなるはずで、ひいてはインテリジェンスのある街の実現に繋がります。

明治通りで歩行者天国を時々やってみる、しかもその時はオープンカフェもセットでやってみてはどうでしょうか。個人的には、ヨーロッパの街中にある小さな KIOSK (キオスク) が、明治通りや渡辺通りに設置されると素敵だと思います。KIOSK では外国人に対するコンシェルジュサービスの実践トレーニングをしてもいいかもしれません。そうすることで、外国人が一体どういう情報をほしがっているの

かが分かり、質の高い情報提供への蓄積になります。道路は車のためだけでなく、人のためにもあるものです。人が家や会社の中だけに閉じこもらず、外で人と触れ合うことは素晴らしいことだと思いませんか。

余談ですが、シティマラソン福岡では街中を走りますが、長浜界隈で倉庫街や都市高速の下をランナーに走らせているのはナンセンスです。なぜ、人々が走って楽しい、眺めのいい場所を走ってもらおうとしないのか、残念ですね。

福岡市として、もっと元気なこと、挑戦的なことに取り組んでほしい、という気持ちもあります。高島市長のチャレンジ力に期待していますし、2階建てバスを導入するという話も、周囲に影響を及ぼすという意味で、いい試みだと思います。仮に失敗したとしても、どんどん挑戦すればいいのです。先程ウォーターフロントの話に触れましたが、他都市の事例を研究して、何かにチャレンジしてみてもどうでしょうか。

最後になりますが、福岡は福岡らしく発展すればいいのです。一つアイデアを述べるなら、博多、天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名といった、それぞれの街の個性を分かりやすくプロデュースすることで、それぞれの地域の人々が自分のエリアをもっと大切にしたいくなるような、そして、福岡のことを深く知らない人にもその違いを楽しんでもらえるような、そんな PR をしていくといいのではないのでしょうか。

インタビュー日:2011/7/6 文責:URC 白浜